

和歌山県教育委員会障害者活躍推進計画の実施状況について

和歌山県教育委員会障害者活躍推進計画の令和2年度の実施状況について公表する。

(1) 継続的な障害者雇用の推進

令和2年6月1日時点の本県の実雇用率は2.14%となっており、昨年同時期（2.11%）からは0.03%改善した。ただし、法定雇用率は未達成の状況にあるため、引き続き積極的な採用に努める。また、民間の事業主に対して率先垂範する立場から法定雇用率の達成に留まらず、継続的な雇用に取り組んでいく。

(2) 職場環境の改善に向けた取組及び庁内相談体制の整備

令和2年6月より、庁内の相談窓口として専門員の「障害者職業生活相談員」を選任し、障害者である職員本人や、職場の支援担当者等が相談できる窓口を教職員課に設置している。

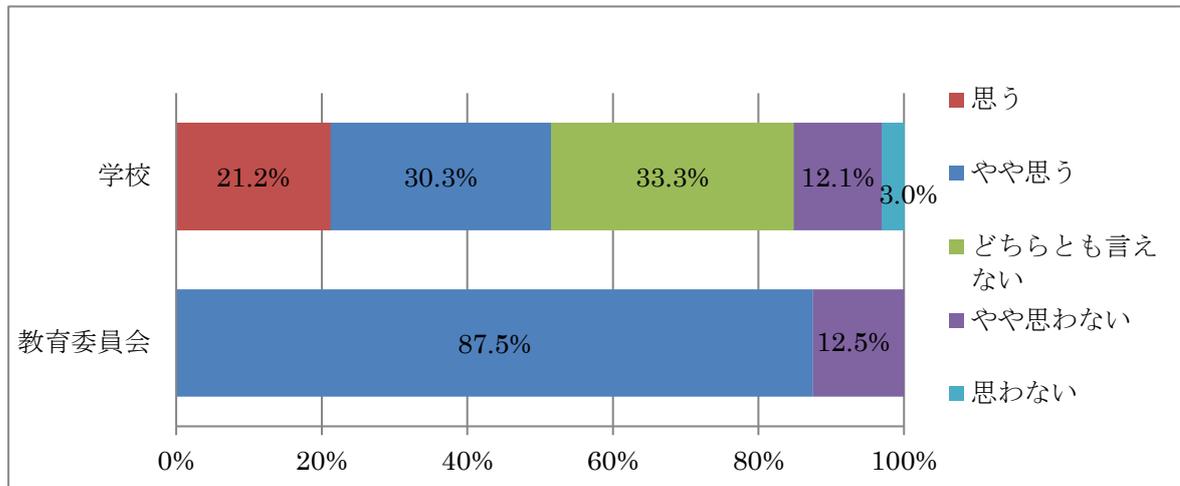
また、障害者職業生活相談員に選任予定の職員に、労働局が開催する障害者職業生活相談員資格認定講習を受講させ、適切な対応がとれるよう相談体制を整えている。

さらに、採用や人事異動により、新たに障害者である職員が配属される職場には、本人の希望を確認し、了解を得た上で、障害特性や必要な配慮についての情報を所属長等と共有し、必要に応じた支援、配慮を継続して行うようにした。

(3) 働きやすい職場環境整備に向けたアンケート実施の結果について

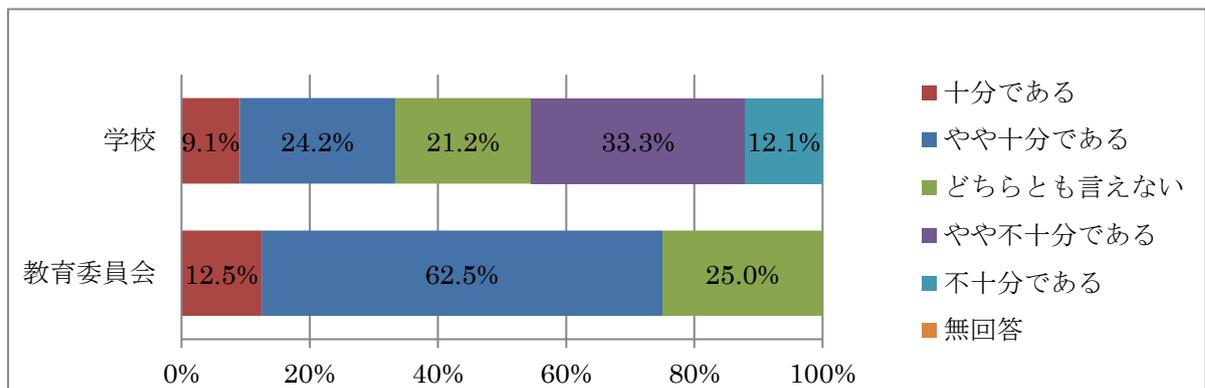
年度内に障害を持つ職員を対象にアンケートを実施した。教育委員会11名、学校34名の対象に対し教育委員会8名、学校33名からの回答が得られた（回答率：教育委員会75%、学校97%）。職場や仕事に関するアンケートに対する回答の集計は以下のとおりになる。

問 あなたは、今の職場は障害者である職員にとって働きやすい職場だと思いますか。



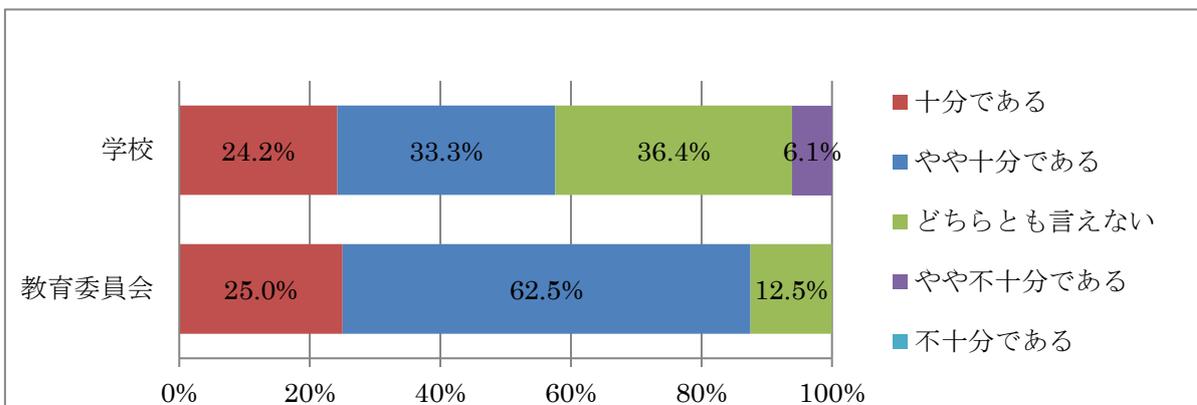
「思わない」「やや思わない」と答えた職員の主な理由として、教育委員会では職員間のコミュニケーションの困難さ、学校ではバリアフリーが進んでいないなどの理由が挙げられた。また、学校では計画策定時のアンケートで「思う」が20.0%、「やや思う」が37.1%の計57.1%であり、今回は51.5%であった。教育委員会では計画策定時のアンケートで「やや思う」が55.6%で、今回は87.5%と、やや改善が見られた。

問 あなたは、障害者である職員の作業環境について、どのように思いますか。



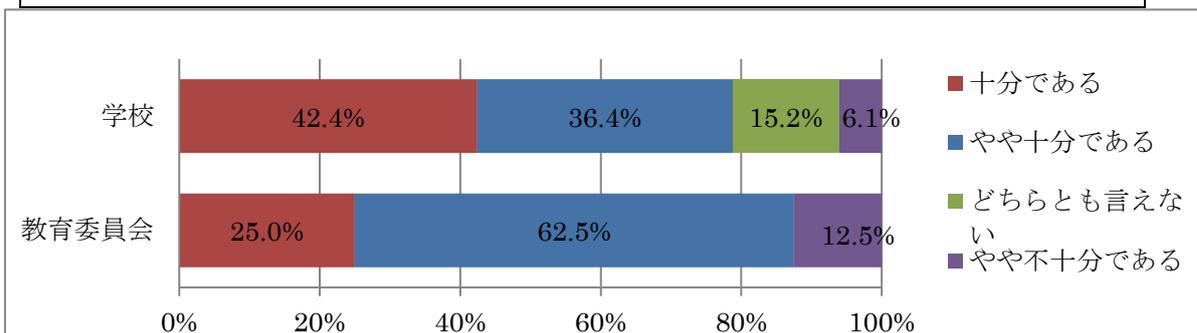
「不十分である」「やや不十分である」と答えた職員の主な理由として、設備の設置が不十分である、作業スペースが狭い、校舎内外の階段や廊下の照度が十分でない等の意見が挙げられた。計画策定時のアンケートでは、学校では「十分である」11.4%、「やや十分である」28.6%の計40.0%であり、今回は33.3%であるため低下した。教育委員会での計画策定時のアンケートでは、「十分である」22.2%、「やや十分である」11.1%の計33.3%であり、今回は75.0%と大幅な改善が見られた。

問 あなたは、障害者である職員の人事異動の配慮や休暇制度、勤務時間に関する制度について、どのように思いますか。



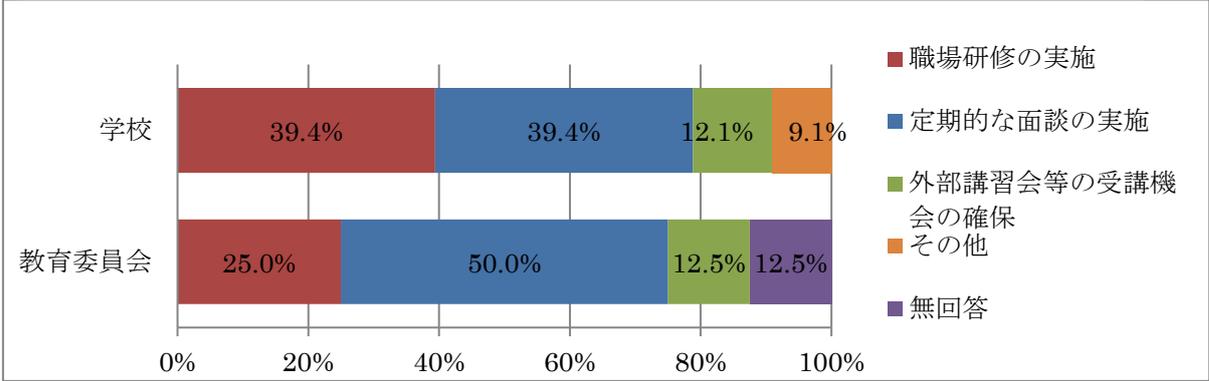
「不十分である」「やや不十分である」と答えた理由の主なものとして、障害の特性に合わせた休暇や勤務形態の整備の希望、人事異動や事務分担変更の際の配慮等に関する理由が挙げられた。

問 あなたは、職場の障害者に対する理解状況について、どのように思いますか。



「不十分である」「やや不十分である」と答えた理由の主なものとして、障害の状態や程度等を理解している職員が少ない、障害者である職員に対する関心が少ないといった理由が挙げられた。計画策定時のアンケートでは、学校では「十分である」28.6%、「やや十分である」34.3%の計62.9%であり、今回は78.8%であるため大幅に改善した。教育委員会での計画策定時のアンケートでは、「十分である」22.2%、「やや十分である」66.7%の計88.9%であり、今回は87.5%であった。

問 職場の障害に関する理解を進めるために必要なことは何だと思えますか。



職場の障害に関する理解を進めるために必要なこととして、研修等により障害に関する知識の習得が必要であるとの意見に加え、障害者である職員と実際に話し合い、本人が必要としている支援等について理解することが重要であるという意見が多く挙がった。

(5) 総括

本県の実雇用率は法定雇用率に達していないものの、昨年度から大幅に改善した項目も見られる。しかし学校における作業環境に関する項目等低い満足度を保った項目があるため、計画目標の達成を目指し、より一層の職場環境の改善に努め、障害者が働きやすい職場作りに努めていく。